UNICEF Teachers' Network 通信

ユニセフT(ティー)・NET(ネット)通信

2010 AUTUMN
No.46

財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部
〒108-8607　東京都港区高輪4-6-12　ユニセフハウス　TEL:03-5789-2014　FAX:03-5789-2034
Email: se-jcu@unicef.or.jp　ホームページ http://www.unicef.or.jp
募金口座▶郵便振替：00190-5-31000　(財)日本ユニセフ協会（送金手数料免除 ※窓口振込のみ）

水をめぐる争い 水危機が世界におよぼす影響

©UNICEF/HQ03-0549/Francois d'Elbee

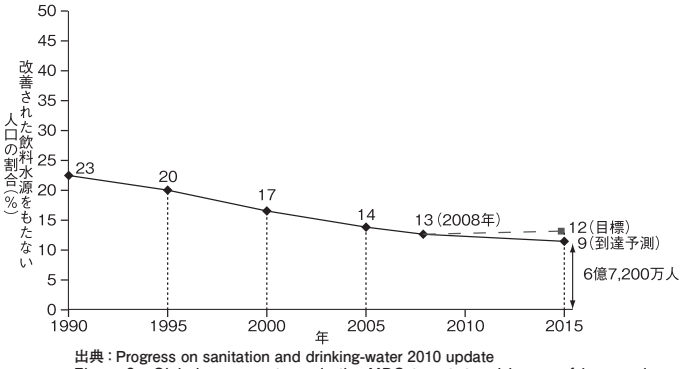
「20世紀が石油をめぐる戦争ならば、21世紀は水をめぐる戦争の時代になるだろう」これは、今から15年前、当時、世界銀行の副総裁だったイスマイル・セラゲルディン氏の言葉です。ユニセフと世界保健機関(WHO)が発表した「衛生施設と飲料水の前進：2010最新報告書」によると、約8億8,400万人の人々が安全な飲料水を飲むことができず、約26億人の人々が改善された衛生施設のない環境で生活しています。希少な水資源の争奪をめぐって争いが起きている国々もあります。水の危機は世界にどのような影響をおよぼすのでしょうか。未来の子どもたちに安全な水を残していくために、私たちにはいま何ができるでしょうか。

水は限りある資源

水の惑星といわれる地球。しかし、地球上の水の97.5%は海水で、残り2.5%の淡水のほとんどは北極・南極などにある氷のため、人間が使える水は全体の0.01%にもおよびません。そのわずかな水を地球上のおよそ68億人が分け合っているのです。過去100年間で世界の人口は3倍に増えましたが、産業の発展や生活水準の向上にともない、水の消費量は6倍に増えました。気候変動による降水量の減少、地下水からの過剰な取水など水の利用方法の変化によって、水の問題はさらに深刻になってきています。

国連食糧農業機関(FAO)によると、2025年には世界の人口の3分の2が水不足の問題に直面するだろうと予測されています。水問題への取り組みなしには、子どもの死亡率削減や初等教育の普及、感染症の予防、貧困の撲滅なども解決できず、ミレニアム開発目標の中でも水と衛生は、最も重要視されている課題のひとつです。2015年までに安全な飲料水を利用できない人の割合を半分に削減することを目標に掲げたミレニアム開発目標は達成できそうですが、それでもなお6億7,200万人の人々が安全な飲料水を利用できない見込みです。(【グラフ1】参照)

【グラフ1】飲料水におけるミレニアム開発目標の進捗状況



出典：Progress on sanitation and drinking-water 2010 update
Figure 9：Global progress towards the MDG target: trend in use of improved drinking-water sources 1990-2008, projected to 2015 より作成

©UNICEF/NYHQ2008-1310/Asselin
コンゴ民主共和国キブ州の避難民キャンプで水道から水を容器に入れる幼い子ども

水の奪い合いから始まる戦争

世界には約260の国際河川がありますが、【表1】のように河川を共有する地域ではすでに水をめぐって争いが起きている国々もあります。カザフスタンとウズベキスタンにまたがる塩湖のアラル海は、世界で4番目に大きい湖でしたが、1960年代、当時のソ連による綿花栽培のための大量取水によって水量が60%以上減少し、急激に縮小しています。そのため、生態系が破壊され、周辺地域への塩害が発生し、漁業は壊滅しました。湖に隣接する国々の間では利害が対立し、湖の再生への調整は進んでいません。世界最大の人道危機といわれるスーダン・ダルフール紛争も、一般的には、アラブ系遊牧民とアフリカ系農民との民族紛争と認識されていますが、元々は干ばつによる水不足が争いの火種でした。国際河川では、上流国が灌漑やダム開発、水力発電などで水を使うと、下流国で排水による水質汚染をまねくなど健康への悪影響を及ぼしたり、下流で水量が少なくなることで、衝突を引き起こしているケースが多くあります。

そのような状況の中、水不足に拍車をかけるのは気候変動です。長引く干ばつにより、農業を収入源とする開発途上国では経済が困窮し、子どもたちは栄養不良や病気をわずらい、教育の機会を失うことにつながります。

©UNICEF/NYHQ2009-0867/Noorani
手押しポンプから水を容器に入れるバングラデシュの女性と女の子

©UNICEF/NYHQ2008-0720/Volpe
避難民キャンプで配られるファミリーキット。2008年、ユニセフは、グルジアで紛争を逃れて避難している約1,000人の人々に折りたたみ式の水の容器やバケツ、石けんなどが入ったキットを配布した。

現在、汚れた水や不衛生な環境のために、毎年、推定150万人の5歳未満の子どもが命を失っています。水の利害をめぐって戦争が起きれば、子どもたちの生命をも脅かすことになります。開発途上国は、特に気候変動の影響を受けやすいうえ、資金不足のため、十分な対策を講じることが困難です。各国が自然の恵みを平等に享受していくためには、環境保全と開発のバランスを保ちながら水資源の確保、適切な水管理など水の問題に世界全体で取り組まなければなりません。

ユニセフは、水と衛生の分野における主導機関として、これまで90カ国以上の国と地域で、飲料水の供給、給水施設や衛生施設の設置、学校での衛生教育、緊急時の清潔な衛生環境の確保などに取り組んできました。また、近年は気候変動への対策として、国連環境計画(UNEP)と協力し、各国政府が自国の子どもたちに自分たちで環境を保護し、再生させる方法を学習する機会を提供する「環境教育キット」の開発を進めるなど、子どもたちや若者の環境意識を高めるための教育を行っています。地球環境を守るためには、将来の水の消費者である子どもたちが水を含めた天然資源の正しい活用や自然との調和を考え、環境に対して高い意識を持ち、行動に移すことができるようにすることが大切です。水危機に対する国際的な取り組みは、子どもの基本的ニーズを満たし、権利を充足することそのものに寄与するからです。

【表1】世界で起きている水をめぐる争いの事例

国際河川・湖	流域国	問題
ナイル川	エジプト・スーダン・エチオピア・ウガンダ・ケニア・コンゴ民主共和国・ルワンダ・ブルンジ・タンザニア	下流国のエジプトとスーダンが1959年に結んだ協定に基づいて自国に有利な取水割当量の維持を主張するのに対して、上流国はより平等な配分を求めて対立している。エジプトには取水源が乏しく、人口増加で一人当たりの取水量が減少しているが、上流国でも水需要が増している。
ユーフラテス川	トルコ・シリア・イラク	トルコでダム建設を行ったことにより、下流で異常渇水が起こったことを機に1960年代以降、水の分配量をめぐって流域国の関係が悪化している。
ヨルダン川	シリア・イスラエル・ヨルダン・パレスチナ自治区	イスラエルがパレスチナの占領地の帯水層から大量の水を消費し、各国の水の消費量に格差が生じている。
メコン川	中国・カンボジア・タイ・ラオス・ベトナム	メコン川流域の最上流国である中国による大規模ダム開発により水位が低下したために、農業や生態系への被害を受ける下流国からの批判が高まっている。流域国がメコン川流域の開発について協議するための委員会に中国は参加していない。
アラル海	ウズベキスタン・カザフスタン・キルギスタン・トルクメニスタン、タジキスタン	綿花栽培のための取水により、水量が大幅に減少した。塩分濃度が上がり、生態系が破壊されたため、漁業は廃止に追い込まれた。上流国と下流国の間では利害が対立し、アラル海再生への調整は進んでいない。
チャド湖	チャド・ニジェール・ナイジェリア・カメルーン	降水量の減少と農業用水への高需要によって、1960年代以降、水量が大幅に激減した。過放牧や灌漑による不適切な管理が原因で、砂漠化が進んでいる。

【参考資料】
・国土交通省「平成20年版　日本の水資源」
・「国際流域での水の分配をめぐる係争と協調」　中山 幹康　著
・国連開発計画「人間開発報告書2006概要
　水危機神話を越えて:水資源をめぐる権力闘争と貧困、グローバルな課題」
・日本水フォーラム　ウェブサイト